



名城大学 第27回 FD・SD フォーラム

テーマ：コンピテンシーを育成するアクティブラーニング

日時：2026年1月8日(木) 10:00～12:30

開催方法：ZOOM ウェビナー

【企画概要】

名城大学は2026年に開学100周年を迎えます。この節目を契機に、次の10年を見据えた長期的な戦略プラン「MS(Meijo Strategy)36」を現在策定しています。本プランでは、「中部から世界へ 創造型実学の名城大学」という将来ビジョンを掲げ、多様な課題に対応できる人材の育成を目指しています。

本学が「創造型実学」において目指すのは、学生が「物事を中心に立ち、課題解決に必要な知識・技術・アイデアを集め、具現化する力」を身につけることです。この理念を教育として実現するには、学生が身につけるべき具体的な能力を明確にし、カリキュラムに組み込み、実際の授業で育成する必要があります。このような取り組みにおいて、近年多くの大学で導入が進むコンピテンシー育成の実践が参考になると考えられます。そのため、本フォーラムでは、他大学におけるコンピテンシーを育成する教育の制度設計と授業実践の事例から、本学における「創造型実学」の具体化に向けたヒントを得たいと考えています。



基調講演

「愛媛大学における『愛大学生コンピテンシー』の策定と実質化」

中井 俊樹 氏 (愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 教授)



事例報告

「お茶大コンピテンシー10に基づくアクティブラーニングの実践」

押尾 恵吾 氏

(お茶の水女子大学 総合知開発研究機構 コンピテンシー育成開発研究所 特任助教)

【申込方法】 (定員：300名)

下記 URL または QR コードからお申し込みください。お申し込み後、参加方法の詳細が自動メールにより送付されます。

※他大学の教職員の方もお申し込みいただけます。

https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_JhyKEOPBRJOS4to1yCbGug



【お問い合わせ先】名城大学 大学教育開発センター

E-Mail : edcenter@ccml.meijo-u.ac.jp

TEL : 052-838-2033 (内線 : 2659)

MEIJOth
MEIJO UNIVERSITY 1926 - 2026

第27回FD・SDフォーラム「コンピテンシーを育成するアクティブラーニング」

1.実施概要

- 日時：令和8年1月8日（木）10：00～12：30
- 場所：Zoom ウェビナーによるオンライン開催
- 基調講演 テーマ：愛媛大学における「愛大学生コンピテンシー」の策定と実質化
- 基調講演 講師：中井 俊樹 氏（愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 教授）
- 事例報告 テーマ：お茶大コンピテンシー10に基づくアクティブラーニングの実践
- 事例報告 講師：押尾 恵吾 氏（お茶の水女子大学 総合知開発研究機構 コンピテンシー育成開発 研究所 特任助教）
- 参加者数：114人
（本学専任教員等77人、本学事務職員等23人、他大学教員9人、他大学職員4人、その他1人）

本学専任教員等 所属・職位別参加率

	教授	准教授・助教	その他※	学部全体
法学部	17.2%	23.5%	0.0%	18.8%
経営学部	0%	0%	—	0%
経済学部	26.7%	0%	—	14.8%
理工学部	11.5%	6.7%	0.0%	9.4%
農学部	4.3%	4.5%	0.0%	4.0%
薬学部	42.9%	37.5%	0.0%	34.3%
都市情報学部	19.0%	0.0%	—	14.8%
人間学部	25.0%	33.3%	—	27.3%
外国語学部	35.7%	16.7%	0.0%	23.1%
情報工学部	7.7%	0.0%	—	4.5%
教職センター	83.3%	50.0%	—	75.0%
理工学研究科	0%	—	—	0%
インターナショナル 教育・研究センター	—	—	0.0%	0%
総計	18.3%	14.0%	0.0%	15.7%

※「その他」は、助手・特任講師・特任助教・特任助手。

2. アンケート方法等

アンケート方法：Google フォーム

- 質問項目：以下のとおり
- ①所属を選択してください。
 - ②自分の業務に活かせる知識やスキルを身につけることができた。
 - ③本フォーラムで得た知識やスキルは自組織の改善に役立つと思う。
 - ④本フォーラムを通じて、自身の業務に対する意識や考え方に変化があった。
 - ⑤本フォーラムを踏まえて、自身の行動や業務の取り組み方を変えていこうと思う。
 - ⑥（⑤の設定において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を選択した方のみ回答）
どのように行動を変えていこうと考えていますか。具体的にお書きください。

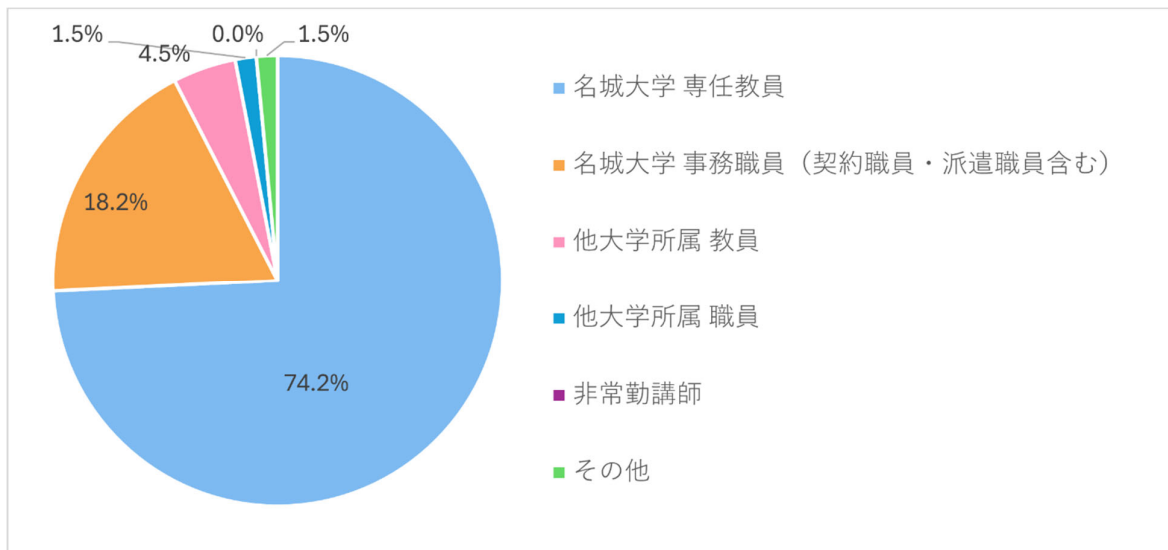
⑦研修内容は満足できるものだった。

□回答者人数：66名（本学専任教員等49人、本学事務職員等12人、他大学教員4人、その他1人）

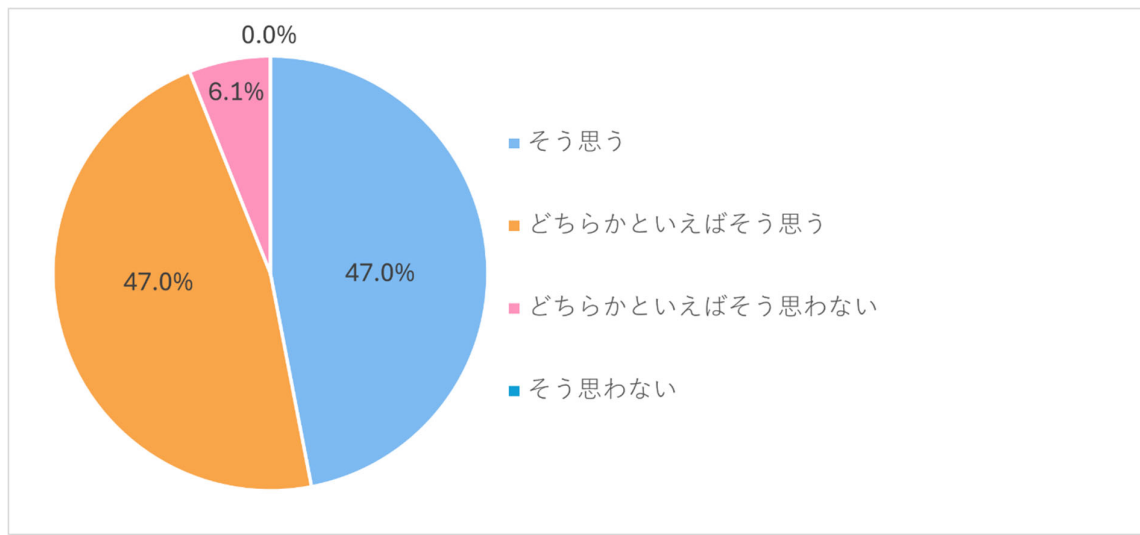
□質問⑥について主な意見のみを示しています。（※一部抜粋・改稿を含む）

3. アンケート結果

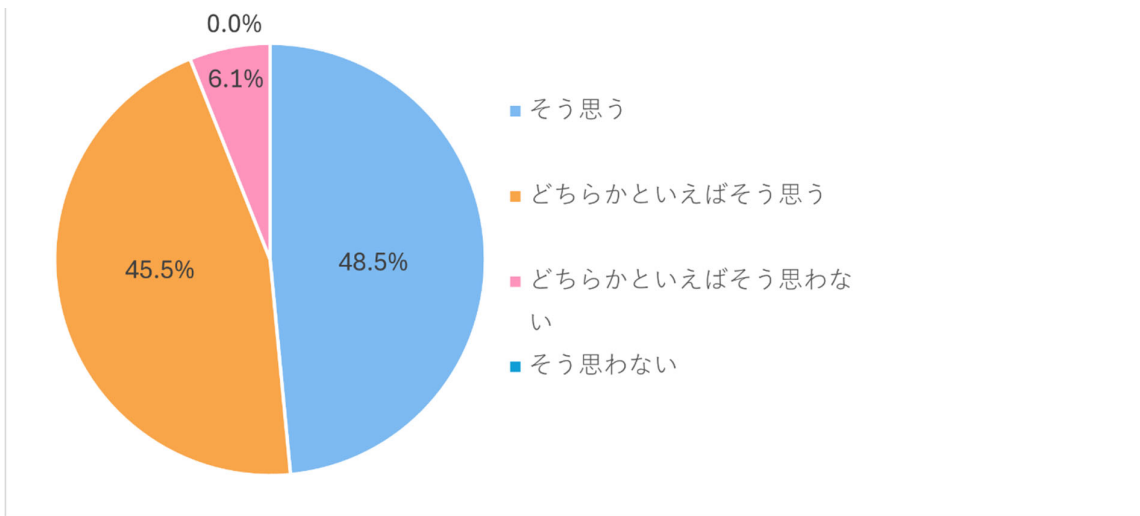
①所属を選択してください。



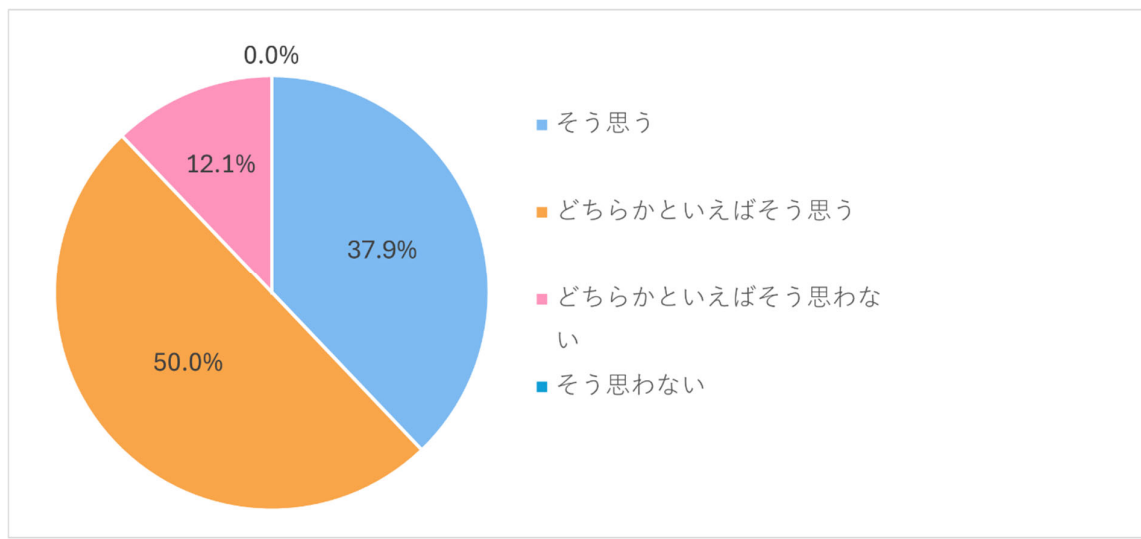
②自分の業務に活かせる知識やスキルを身につけることができた。



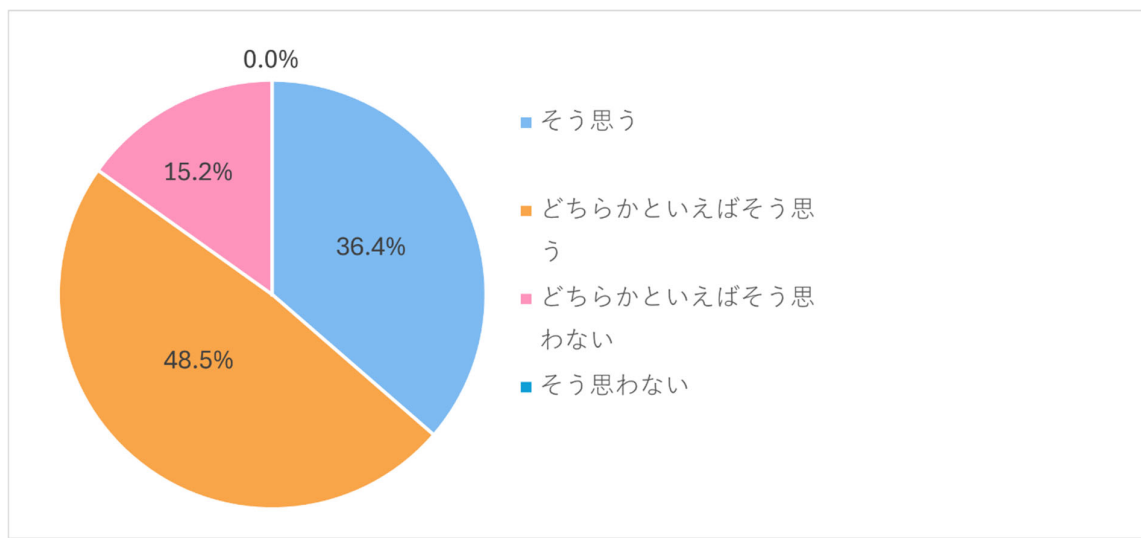
③本フォーラムで得た知識やスキルは自組織の改善に役立つと思う。



④本フォーラムを通じて、自身の業務に対する意識や考え方に変化があった。



⑤本フォーラムを踏まえて、自身の行動や業務の取り組み方を変えていこうと思う。

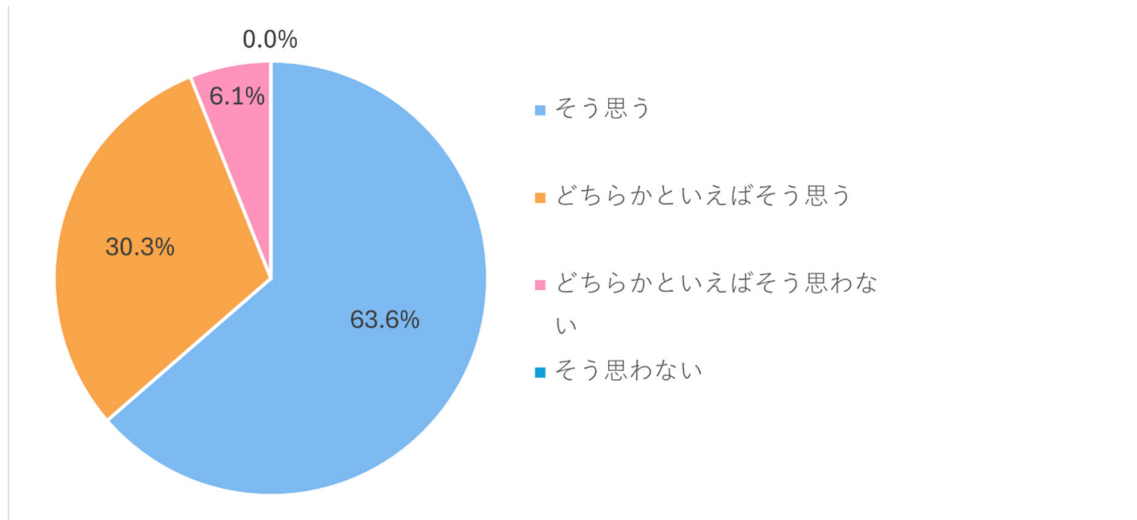


⑥ (⑤の設問において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を選択した方のみ回答)

どのように行動を変えていこうと考えていますか。具体的にお書きください。

- ・コンピテンシーの育成を重視した教育への転換の必要性を教職員の皆様に理解いただくため、粘り強く対話を続けたい。
- ・来年度の授業において、コンピテンシーを意識した具体的な課題を考えるとともに、実践できるように準備に取りかかりたい。
- ・教育活動とコンピテンシーの関係を踏まえ、学生の強みと弱みを見極めたい。
- ・授業の組み立て方に関して、もっと情報を集めようと思う。
- ・文系学部に比べて、理系学部ではなかなか実践が難しいと思いながらも、学科として何か機会を設けられるようにしたい。
- ・特に1、2年生の授業において、当該授業でどのような「コンピテンシー」を養成しようとしているのかを具体的に示そうと思う。また、学生の自己評価も含め、シラバスを考えたい。
- ・身に付けて欲しい行動特性を学生に説明してみたい。
- ・コンピテンシー育成の重要性は感じるため、全学あるいは学部における講義の位置づけを認識し、必要に応じて行動を変えていこうと思う。
- ・得た知識を使いこなすためのアクティブラーニングの導入について考えたい。
- ・すでに自分の授業でアクティブラーニングは実施しているが、さらに思考力や表現力を高めるようなアクティブラーニングに改善していきたい。
- ・学生が自分の成長を可視化できるようにという視点に立つと、フィードバックの質とタイミングを見直す必要があるように感じた。できるだけ即時フィードバックに近づけ、学生の気づきを促すような授業設計をさらに検討したいと思った。
- ・アクティブラーニングの目的を、きちんと学生にも伝えたい。
- ・自分の授業の中で、アクティブ・ラーニングを通じたコンピテンシー育成のプロセスを実践しようと思う。
- ・シラバス構築時に活用したい。
- ・コンピテンシーを構成する個々の能力のうち、自身の担当科目で鍛えられそうなものは、授業内での問いや課題・テスト等を工夫することで伸ばせるようにしたい。

⑦研修内容は満足できるものだった。



以上